

茨城大学学報

第287号

平成21年10月～平成21年11月



秋深まる水戸キャンパスの風景

INDEX

- ◆茨城県北ジオパーク懇談会の開催
- ◆阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク共催シンポジウムを開催
- ◆「いばらきものづくりフェスタ 2009」に参加
- ◆常陸大宮市・茨城大学地域連携事業シンポジウム「よみがえる戦国の城」を開催
- ◆近隣小学生が生活科の学習「町探検」として構内を施設見学
- ◆藤原貞朗准教授「サントリー学芸賞」「渋沢クロード賞」のダブル受賞
- ◆第60回茨苑祭を開催（テーマ：「絆～ともに～」）
- ◆平成21年度「永年勤続者表彰式」を実施

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 茨城県北ジオパーク懇談会の開催（茨城大）

茨城大学では、平成 21 年 10 月 14 日（水）に北茨城市内のホテルで茨城県北ジオパーク懇談会を開催しました。

この懇談会は、本学が茨城県北地域の振興策として「ジオパーク構想」を取り上げ、地域と大学との連携を目的に開催されたものです。具体的には、今回の懇談会に出席された 9 市町村の首長方の同意により、「茨城県北ジオパーク推進協議会（仮名）」の設置を目指したものであります。

懇談会は本学の池田幸雄学長の開会挨拶に始まり、本学地域連携推進本部長の天野一男教授、高知工科大学地域連携機構地域活性化室長である永野正信氏から、ジオパークについての説明と講演がありました。

続いて、参加された首長を中心として活発な意見交換が行われました。概ね地域活性化の新しい切り口として期待される等の意見が多く、推進協議会の設置が合意されました。これを受けて、今後は関係自治体との連携をさらに密にし、日本ジオパークへの申請に向けた準備体制を整えることとなりました。



池田学長の開会挨拶



関係市町村首長からの活発なご意見

◆ 阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク 共催シンポジウムを開催

平成21年10月17日（土）、阿見町の本郷ふれあいセンターにおいて、「今、地域が育てる豊かな「食」を考えるー地産地消の「食」と健康・「食」と教育の視点からー」と題した、阿見町・茨城大学・あみ自然再生ネットワーク共催によるシンポジウムが開催されました。4回目となる今年は、一般市民を中心とした95名が参加しました。

開会挨拶では、川田弘二阿見町長及び松田智明茨城大学理事・副学長（学術担当）から本シンポジウムが大変意義深いものであることや、今後も連携を推進していく抱負が述べられました。また、茨城県うまいもどころ食彩運動推進協議会会長の安藤節子氏より来賓挨拶がありました。

次いで、安江健茨城大学農学部地域連携推進委員長から本シンポジウム開催に至る経緯や開催主旨が説明され、その後阿見町学校給食センター及び阿見町実穀小学校から「阿見町における学校給食での食育・食農教育の取り組み」についての報告がありました。

シンポジウムの第1部では、茨城県において地域ぐるみでユニークな食農教育を展開している東海村照沼小学校での実践例を、東海村農業支援センター・池田友紀氏及び東海村民会議照沼支部・曳沼裕一氏から報告がありました。

第2部では、コーディネーターの中島紀一茨城大学農学部長、パネラーとして10名の茨城大学農学部・東京医科大学茨城医療センター・茨城県学校栄養士会並びに地元の環境保全団体の関係者が「今、地産地消の意義を考える」と題したパネル討論会を行い、地産地消の意義について、健康面、教育面ならびに地域づくりの面から活発な意見交換を行い、有意義な討論会となりました。



シンポジウムの様子

◆ 「いばらきものづくりフェスタ 2009」 に参加（茨城大）

10月24日（土）、25日（日）の2日間、「いばらきものづくりフェスタ 2009」が、日立シビックセンターを主会場に開催されました。

これは技能五輪・アビリンピック茨城大会 2009 の併設イベントとして開催されたものです。

茨城大学工学部技術部は、日立ものづくり学校のメンバーとしてこのイベントに参加しました。2日間とも小学生などを対象にもものづくりのおもしろさを体験してもらい、理科離れや地域貢献の一助になることを目的に、“マジックミラーを作ろう”、“PPテープでボールを作ろう”と言う2つのテーマでの参加となりました。

当日は2日間で200人を超える参加があり、できあがった時の喜びや満足感を共有することができたことは、参加した技術職員にとっても非常に有意義な経験となりました。



茨城大学工学部の会場の様子



親子で楽しくマジックミラー作り



視察に訪れた橋本県知事



マジックミラー作りの一コマ

◆ 常陸大宮市・茨城大学地域連携事業シンポジウム 「よみがえる戦国の城」を開催

常陸大宮市は、平成 16 年に 5 ヶ町村が合併して誕生した、茨城県北部に位置する自治体です。この常陸大宮市と茨城大学人文学部との間で、平成 17 年、「地域連携に関する協定」が締結され、共同研究「常陸大宮市域の山城跡とその周辺の活用できる資産に関する分布調査」が実施されました。大学の教員・学生と、市資料館の専門職員の手で、山林の中に眠る貴重な文化的資産として山城跡を調査し、現代の市民が歴史を学び感じることができるよう場として活用するための基礎調査を行うこと、それがこのプロジェクトの目的でありました。平成 21 年 11 月 1 日（日）、常陸大宮市文化センターロゼホールで開催されたシンポジウム「よみがえる戦国の城」は、その調査・研究成果を公開し、あわせて市民に、山城の魅力や文化財的な意味を認識してもらうため、企画された事業です。当日は、350 名の参加者があり、茨城大学教授の酒井紀美氏、成蹊大学教授の池上裕子氏による室町・戦国期をテーマとした記念講演や民間の城郭研究者による講演、本学の大学院生らによる市域の山城跡に関する研究報告が行われ、聴衆はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。



シンポジウムの様子

◆ 近隣小学生が生活科の学習「町探検」として構内を施設見学

茨城大学では、平成 21 年 11 月 2 日（月）に、水戸市内の小学校 2 年生の児童を迎え、構内施設見学を行いました。これは、小学校の生活科の学習「町探検」のひとつとして、実施されたものであり、小学校 2 年生 15 名、保護者 3 名、引率教員 1 名が参加しました。

小学生からは、さまざまな質問が飛び交い、案内役を担当した理学部・百瀬宗武准教授も丁寧に対応していました。中には「何時間勉強したら茨城大学に入れますか？」という、将来の茨城大学にとって心強い質問をしてくれた児童もいました。

参加した児童は、大学の講義時間が小学校の授業時間の倍の長さであることや、教職員の数の多さ、建物の数、敷地面積の広さに驚きながらも、普段はなかなか入ることのできない大学の施設に興味津々といった様子でした。

また、「理学部総合研究棟」の最上階（7 階）から自分たちの住んでいる町の様子を見渡し、目を輝かせていました。

見学終盤には、理学部・藤間昌一准教授の「アルゴリズム論」の講義に飛び入り参加をしたり、図書館や生協を見学したりするなど、ちょっぴり大学生の気分を味わいました。

こういった活動を通して「茨城大学に入りたい」という気持ちを持ってくれる児童が増えてくれることを期待しています。



藤間昌一准教授の講義を見学する児童たち



図書館見学の様子

◆ 藤原貞朗准教授「サントリー学芸賞」「渋沢クローデル賞」のダブル受賞

平成 21 年 11 月 6 日（金）に財団法人サントリー文化財団は「第 31 回サントリー学芸賞」の受賞者を発表しました。本学人文学部の藤原貞朗准教授の著作『オリエンタリストの憂鬱～植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』（めこん）が「文学・芸術部門」の受賞作に選ばれました。この本は、世界文化遺産として知られるカンボジアのアンコール遺跡の復興に取り組んできたフランスの考古学者たちの活動の歴史を扱ったもので、植民地主義時代の政治と学問の相克を見事に物語化しています。

サントリー学芸賞は、個性豊かで将来の期待される新進の評論家や研究者に対して贈られ、とくに、主題への斬新なアプローチ、従来の学問の境界領域での研究、フロンティアの開拓などの点を評価する賞です。なお、本賞の贈呈式は 12 月 10 日（木）、東京・千代田区丸の内の東京会館にて開催されました。

また、本書はすでに 6 月に、財団法人日仏会館と読売新聞の主催による「第 26 回渋沢クローデル賞」（日本側本賞）を受賞しており、定評ある 2 つの賞のダブル受賞となりました。渋沢クローデル賞は日本とフランスの文化に関する優れた研究成果に対して、日仏両国の研究者に贈られるもので、授賞式は 6 月 22 日（月）、東京・恵比寿の日仏会館にて行われました。



受賞作『オリエンタリストの憂鬱～植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』（めこん）を手にする藤原貞朗准教授

◆ 第 60 回茨苑祭を開催（テーマ：「絆～ともに～」）

平成 21 年 11 月 14 日（土）～15 日（日）、茨城大学水戸キャンパス構内において、第 60 回茨苑祭が開催されました。今年度の茨苑祭はテーマを「絆～ともに～」とし、茨苑祭の歴史という繋がり、地域と大学の繋がり、学生との繋がりといった、様々な繋がりを再確認することをコンセプトとして学生が一体となり臨みました。

ステージでは、お笑いタレントを招いたお笑い L I V E や、60 回を記念しての特別企画・餅つき大会のほか、多彩なジャンルの演奏・パフォーマンスが観客を魅了。毎年恒例の各参加団体による模擬店や展示・発表、献血キャンペーン等も、60 回を迎え例年以上の盛り上がりを見せていました。

また、今年度は I B S 茨城放送による放送ブースを設置し、茨苑祭の見所や本学の魅力を 6 時間にわたって生放送しました。「ふるさと放送局『茨大で語れば』」と題し、水戸キャンパス内に設けられた特設スタジオから、学園祭の様子を交えながら、同大の教育・研究・地域貢献の内容を教員や学生らが紹介していきました。

特設スタジオには常時 20 名程度の方が生放送の様子を観覧、「茨苑祭は知らなかったが、放送を聴いて出かけてみた。それぞれにいろいろなことに取り組む学生さんの姿がほほえましかった」「大学の先生の話は難しいかと思ったけれど、わかりやすかった」などの声がありました

途中、日立、阿見キャンパスからも中継が入り大学一体となって企画を盛り上げました。

そのほか、農学部・新田洋司教授によるバイオ燃料の講義や、本学大学院の O B である小説家・関口尚氏による特別講演など、本学の魅力を来場者に楽しく体験してもらうとともに知的好奇心を刺激する企画も多く催されました。

開催期間中は悪天候に悩まされた時もありましたが、最終的にはフィナーレを飾る花火の歓声に包まれて無事終了しました。



茨苑祭に来場した子供との記念撮影



特設スタジオで放送を見守る一般参加者

◆ 平成 21 年度「永年勤続者表彰式」を実施

平成 21 年 11 月 20 日（金）事務局 2 階第 2 会議室におきまして、池田幸雄学長、白石昌武理事、松田智明理事、山本恵一理事、小野義隆副学長、鈴木武総務部長の立ち合いのもと、国立大学法人茨城大学表彰規程による永年（20 年）勤続表彰にあたる 6 名の方々に対して、表彰状授与と記念品贈呈が行われました。

学長は、永年勤続者のこれまでの労苦を称えるとともに、「今まで勤務されてきた 20 年間の社会の変化よりも、今後の 20 年は、より早いスピードで社会は変化していくだろう。皆さんには、それに乗り遅れることなく頑張ってもらいたい。」と教職員のさらなる意識改革の必要性を説いて激励しました。

これに対し被表彰者を代表して、丹みどり教育学部附属特別支援学校養護教諭から謝辞がありました。

引き続き、懇談会が催され、盛会のうちに閉会しました。

国立大学法人茨城大学表彰規程による学長表彰者は次の方々です。

岡野 修久	財務部契約課契約第一係長
中島 隆行	教育学部附属小学校 教諭
霜山 尚美	教育学部附属小学校 教諭
豊田 かおり	教育学部附属小学校 教諭
岡部 正徳	教育学部附属中学校 教諭
丹 みどり	教育学部附属特別支援学校 養護教諭



学長と今年度の永年勤続表彰を受けたみなさんの記念撮影